

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0732
施設名	敬愛桃の実保育園
施設所在地	町田市小山ヶ丘3-28
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【0歳児 光遊び】

光のお部屋で自分のペースで楽しむ

<テーマの設定理由>

・今年度よりジャクエツのHIKARI TO TABLEの導入をした。他クラスがHIKARI TO TABLEを使って光遊びをしている様子を興味深く観察していた為。

2. 活動スケジュール

11月7日 HIKARI TO TABLEで小さなお部屋が完成！入ってみよう

11月10日 太陽で光遊びを楽しもう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・新聞紙でHIKARI TO TABLEを囲い、小さな部屋のような空間を作った。
- ・準備物：新聞紙、カラーセロファン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・HIKARI TO TABLE (ジャクエツ) の電源をオンにし光が反射する空間を楽しむ。
- ・HIKARI TO TABLE (ジャクエツ) の上にカラーセロファンで作成した光遊び玩具を乗せて遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・初めての空間に入ることをためらうお子さまもいたが、保育者が一緒に入ったり、膝に乗せると楽しんで遊ぶ姿が見られた。
- ・あたりを見渡し、不思議な光の世界を観察していた。
- ・戸外では、反射して地面にうつっている光よりも保育者が持っているカラーセロファンに興味を示す姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・0歳児クラスでも楽しめるように、光を感じやすい小さな部屋を作り環境を整えた。
- ・HIKARI TO TABLE (ジャクエツ) を使った光遊びは、光を感じながら楽しむ姿が見られたが、戸外での光遊びは難しく、反射している影に興味をあまり示さず保育者の持っているカラーセロファンに興味を示していた。カラーセロファンを大きいサイズに替えると、見やすくなり光遊びを楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0732
施設名	敬愛桃の実保育園
施設所在地	町田市小山ヶ丘3-28
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【0歳児 自然】

身の回りで見つけた物に興味をもち、何でも触ったり、踏んだり、眺めたりと物と様々な関わりをして遊ぶ。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ハイハイや歩行が発達し、戸外での活動範囲も広がってきた。その中でどんぐりを見つけ、興味を示す姿が見られるようになった。
- ・お子さまの好きなどんぐりを日常の保育でも取り入れられるように、普段からお子さまに人気の玩具“手作りマラカス”のどんぐりバージョンをつくれるよう環境設定を行った。

2. 活動スケジュール

10月25日 公園でどんぐりを見つけたよ
10月28日 どんぐりを拾って園に持ち帰ろう
10月30日 どんぐりマラカスを作ってみよう
11月 8日 いろいろな楽器を使って楽器を遊びをしよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・お子さまの言葉にならない声を拾いながら保育を展開していった。

準備物:どんぐり・飲料容器・丸シール

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・戸外でどんぐりを拾い、袋に入れて園に持ち帰った。
- ・飲料の容器と戸外で拾ったどんぐりを用意し、マラカスを作った。
- ・お子さまが制作したどんぐりマラカスや、手作り太鼓など様々な楽器を用意し、好きな楽器で音楽遊びをした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・自身で拾ったどんぐりを袋に入れて手に持ち、園に持ち帰ることを喜んでいた。
 - ・飲料の容器に、どのようにしたらどんぐりを入れることができるのか試行錯誤する姿が見られた。
 - ・どんぐりマラカスを製作してから数か月飽きることなく楽器あそびを楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・お子さまの興味があることや声を拾い、様々な活動に広げることができた。
- ・マラカスづくり…小さなどんぐりを手でつまみ、容器にいれる動きは指先の発達にもつながっていると感じた。
- ・一度の活動で終わるのではなく、制作したマラカスを使って日常的に楽器遊びを取り入れることで継続的に活動が続けていくのが大事だと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0732
施設名	敬愛桃の実保育園
施設所在地	町田市小山ヶ丘3-28
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【1歳児 光遊び】

- ・ 戸外遊びの中で、いろいろな物を使い光の発見を楽しみ、遊びにつなげていく
- ・ 光遊びの回数を重ねていく中で、お子さま自身の発見を大切にしていく

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 身近にある“光”を遊びの中でどのように見つけていくのかを一緒に活動することで見守っていく

2. 活動スケジュール

10月16日 カラーポリ袋の色が地面に写る様子を見てみよう

10月25日 HIKARI TO TABLE

10月29日 HIKARI TO TABLE

11月12日 カラーポリ袋で光遊びをしよう

1月17日 光影絵あそびらぼ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ カラーポリ袋 ・ カラーセロファン ・ ガムテープの芯 ・ HIKARI TO TABLE
- ・ 色水(R1容器に入れたもの)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・最初に保育者が戸外での光遊びの道具を使いお子さまに使い方・遊び方を伝えながら見守り、お子さま自身の発見、を導くことができるような声掛けを行った
- ・室内での光遊びは数回繰り返していけるように保育活動を計画していく

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・戸外では光遊びの道具を別の遊びに使用するお子さまも見られた。その行動に対しては無理強いせず、使い方を提案してみたり、光の存在を言葉で伝えながら様子を見守った。
- ・一度では活動自体を理解できない年齢であったので、何度も繰り返し行う中での発見を大切にしていた



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年齢的には難しい光遊びの活動であったが、室内活動の光遊びの前に身近な戸外遊び中の光遊びの経験ができるように計画し実施した。初めは保育者の予想したではなく、違った遊びになっていたが、保育者の関りや環境設定をしていく中で、光の存在を知らせたり、別の活動も一緒に行う中で光の存在をお子さま自身で発見したりすることで遊びが広がっていった。室内での活動も繰り返し行う中で、イロイロモザイクを使いお子さま自身で重ねて色を楽しむ姿が見られた。継続的に活動を行っていくようにする。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0732
施設名	敬愛桃の実保育園
施設所在地	町田市小山ヶ丘3-28
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【1歳児 自然遊び】

- ・身近に自然を感じられるように戸外や室内でも楽しめる環境を作る。
- ・栽培活動から食育につなげる。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・『どんぐりころころ』の歌が好きで、どんぐりに興味を示していた。
- ・秋ならではの木の実や落ち葉に触れられる環境設定(戸外・室内ともに)を作りたかった。
- ・きのこの栽培キットを使用し、身近にきのこの成長を感じながら過ごし、食育にもつなげていきたい。

2. 活動スケジュール

10月18日 落ち葉を画用紙に貼ろう
10月23日 秋の自然物遊びらば
11月5日 どんぐりを拾おう
12月5日 「やきいも」を焼くための落ち葉を集めよう
12月11日 自然遊びらば「やきいも」
12月～1月きのこの栽培

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・どんぐり ・落ち葉 ・枝 ・段ボール ・紙粘土 ボンド ・袋 ・両面テープ
- ・広場や斜面など、異なる木がある場所。
- ・自然物そのものを使った遊び(落ち葉投げ、どんぐり集め)や、素材(上記記載)を用いての活動。
- ・きのこの栽培キットを使用し、日頃から霧吹きできのこの成長をお子さまたちと共に見守る。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・落ち葉拾い、どんぐり探し。
- ・自然遊びらぼを開催し、お子さまたちが集めた自然物を使用して、保育活動を行った。（葉っぱ貼り、ケーキ作り、マラカス作り）
- ・焼き芋らぼで使用する落ち葉集めを行った。
- ・保育室にきのこの栽培キットを置き、日頃からお子さまが見えるような環境を作った。毎日、霧吹きをお子さまと行き、成長を見守った。成長したきのこは目の前で一緒に収穫し、お食事のメニューに入れて食べる喜びを感じた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・初めは1枚1枚集めていた葉も、回数を重ねていくうちに両手いっぱいにかき集めたり、色を絞って集めたりする姿が見られた。また、葉っぱの雨を降らせることがお気に入りになり、友達で同士で葉っぱを掛け合って遊ぶようになった。
- ・どんぐりを宝物のように大事に持って、公園内を散策したり「どんぐりあった」「どんぐりあるかな？」等、会話の中でもどんぐりというワードがよく聞かれるようになった。その中で、身近に手に取れるよう保育室にどんぐりを置くようにした。
- ・自分たちで育てたきのこがスープに入っていることを伝えると喜んで探す姿が見られた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・秋の自然物を通して、お子さまの同士の関わりややり取りが生まれた。
(一緒にどんぐりを探す、葉っぱを掛け合って遊ぶ等)
- ・一度ではなく継続的な活動が続けることで、お子さま職員共に知識が身に付いたり、お子さまの中で特別なものへと変化していった。
- ・栽培活動から食育につなげることでお子さまがきのこを好きになってもらうきっかけとなった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0732
施設名	敬愛桃の実保育園
施設所在地	町田市小山ヶ丘3-28
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【2歳児 光遊び】

- ・光の不思議さを楽しみ、興味関心を広げる。
- ・光遊びから遊びを発展させ、色が変わっていく様子や混色を楽しむ。

<テーマの設定理由>

- ・今年度よりジャクエツのHIKARI TO TABLEを導入したことから、光遊びがより保育の中で身近なものになった為。
- ・園の特色として、ワンフロアなので、カーテンや仕切り等を使って、すぐに光遊びができる環境が整っていた為。
- ・繰り返しの光遊びをする中で、イロイロモザイク（光遊び用の玩具）や絵の具等、お子さまの光に対して興味や関心が深まっていった為。

2. 活動スケジュール

8月1日 HIKARI TO TABLE イロイロモザイクで光を感じよう
11月11日 第1回HIKARITO TABLE スポイトを垂らして、絵具が混じり合う様子を楽しもう
1月15日 様々な光遊びグッズを使って、色を感じてみよう
1月17日 光遊びらぼ（光遊びグッズや絵具で光を感じてみよう）
1月22日 第1回HIKARITO TABLE スポイトを垂らして、絵具が混じり合う様子を楽しもう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・園内のシャッターを閉めたり、電気を消したりしながら光がより分かる環境を整えた。
- ・準備物：光遊びBOX、花紙、カラーセロファン、懐中電灯、生活素材（プラスチック）
スポイト

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・HIKARI TO TABLE（ジャクエツ）のガラスを裏返して、水を入れる。そこに水で薄めた絵の具の入ったスポイトを垂らして遊ぶ。
- ・ガムテープにカラーセロファンを貼った光遊びグッズを使って、戸外で自然物を覗いてみよう。
- ・HIKARI TO TABLE（ジャクエツ）を使って、障子紙に絵の具で描いていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ 水で薄めた絵の具をスポイトで垂らすと「うわー！いろいろな色になったね！」
「もっといれてみようか？」等、色がマゼリングとなって綺麗に混じり合っていくのを楽しんでいた。
- ・ スポイトが手先の使う道具であった為、使い方を繰り返し丁寧に伝えるようにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 光遊びグッズを繰り返し遊び続けることで、お子さま達自身が光の角度や遠近を変えて新たな発見や気づきを深めていた。
- ・ 園の特徴を活かしながら、部屋を暗くすることで、光や影がしっかりと映し出されることが活動を通して分かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0732
施設名	敬愛桃の実保育園
施設所在地	町田市小山ヶ丘3-28
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【2歳児 飼育・自然】

- ・様々な生き物に触れて、生命の大切さを知る。
- ・お話の世界から収穫体験につなげて友達同士で一緒に楽しむ。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・以前から虫などの生き物に興味があり、日常保育の中で、より近くで生き物を見たり、触れたりできる環境を設置した為。
- ・保育園がワンフロアの為、異年齢交流をする際に違うクラスのお子さまも身近に感じることができる為。
- ・ごっこ遊びで「おおきなかぶ」を楽しむ中で、実際にかぶ収穫の体験につなげる。

2. 活動スケジュール

4月19日 大きなカブトムシの幼虫を近くで見よう
7月 3日 幼虫から成虫になった！カブトムシになった姿を見よう
7月24日 飼育ケースを置く世界に1つのミニテーブルを作ろう
8月26日 大きな飼育ケースにカブトムシ(オス・メス)とクワガタを入れて飼育をはじめよう
9月 30日 カブトムシに必要な木の枝を拾って飼育ケースに入れよう
10月30日 みんなの食べ物を集めにいこう
12月10日 かぶの収穫体験

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・より近くでいつでも見ることができるように、小さな机を設置した。

準備物:ミニテーブル・大きな飼育ケース・土・昆虫ゼリー

- ・「おおきなかぶ」の絵本・ごっこ遊びグッズ等環境を作り、興味関心が持てるようにした。
- ごっこ遊びから実際にかぶの収穫体験につなげていけるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・大きな飼育ケースに、土と虫かごで飼育していたカブトムシのオスとメス1匹ずつ入れた。霧吹きを行い、昆虫ゼリーを入れるなどして、クラス内で大切に育てた。
- ・カブトムシが亡くなり、戸外散策中に捕まえた生き物(バッタ、ダンゴムシ、ちょうちゅう、ミミズなど)を園に持ち帰り、ビオトープ(陸)で飼育し、興味関心を広げた。
- ・ビオトープ(水辺の生き物)で育てているメダカに餌をあげる様子を観察した。
- ・「おおきなかぶ」のお話から実際にかぶの収穫体験をしてみたいという気持ちにつながた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・近くで見ることができるようになった為、朝(明るい)は土に潜っている事、暗くなると土から出てくることに気付いていた。また、ビオトープに拾ってきた葉っぱを入れると、「ばったさん、たべてくれるかな?」と期待をもって観察する姿があった。
- ・カブトムシは夏が終わると死んでしまう事、他の生き物は、食べるものが無いと死んでしまう事を学んだ。
- ・メダカの餌やりでは、ビオトープを覗き込んで食べる様子を夢中で見ていた。
- ・日頃からごっこ遊びを楽しむようになり、発表会で実際に演じた。また、その後に下部の収穫体験の機会を作り、意欲的に参加する様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ワンフロアという園の特徴を活かし、ビオトープらばを行うことでクラスの垣根を越えて生き物に興味を持つ姿が見られた。
- ・最初は生き物に触れることができなかったお子さまも、長く飼育していくことで触れるようになったり、楽しんで活動に参加している姿が見られた。
- ・ごっこ遊びでは、お話の世界を楽しむ共に、実際に本物のかぶ収穫につなげることで五感で意欲的に活動するお子さまの姿や達成感、喜びにつなげることができた。